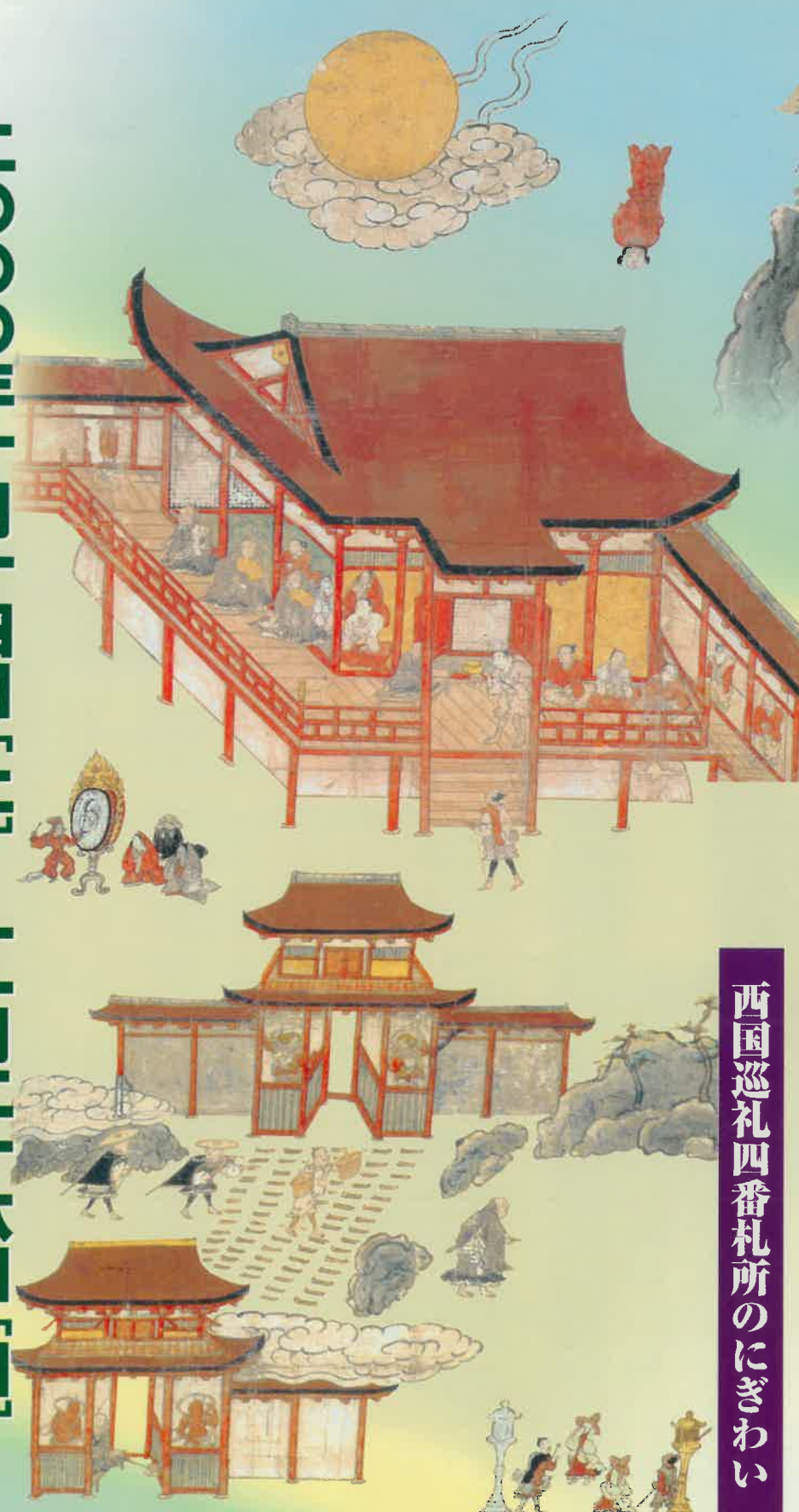


和泉槇尾山の至宝展

西国巡礼四番札所にぎわい



二〇〇〇年十月十四日〔土〕—十一月二十六日〔日〕

前期十月十四日〔土〕—十一月五日〔日〕／後期十二月七日〔火〕—十二月二十六日〔日〕
 休館日 月曜日〔祝日の場合は開館〕／祝日の翌日
 午前10時—午後5時〔入館は午後4時30分まで〕

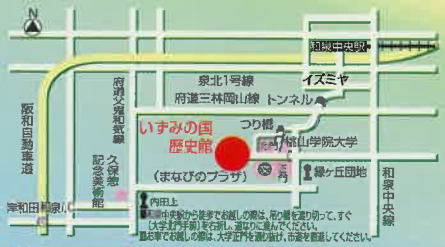
大人二〇〇円／一六〇円／大高生一〇〇円／八〇円 団体二〇名以上

六五歳以上・中学生以下・障害者の方〔介護者は一名まで〕 無料

和泉市いずみの国歴史館

〒594-1152 和泉市まなび野2番4 電話0725-53-0802

和泉市いずみの国歴史館



交通のご案内

鉄道 泉北高速鉄道「和泉中央駅」下車徒歩20分
 バス 〈和泉中央駅から〉南海バス3番乗り場より「松尾守行寺」・「美術館行き」
 緑ヶ丘団地（桃大正門前）下車徒歩5分
 〈泉大津・和泉府中方面から〉南海バス
 「松原寺」・「春木川」・「春木北口」・「新橋」各方面行き 内田下 下車徒歩7分

記念講演会のご案内（予約制）【各講演とも先着100名】
 申し込みは、往復はがきに希望講演の日・住所・氏名・電話番号を記入の上、歴史館へ郵送して下さい（10月1日消印より有効）。定員になり次第締切です。

吉原 忠雄氏
 （大谷女子大学 文学部教授）
 『槇尾山の伝像』

塚田 孝氏
 （大阪市立大学 文学部助教授）
 『槇尾山の歴史と地域』

10月22日〔日〕

11月26日〔日〕

いずれも午後1時開演 まなびのプラザ（歴史館）会議室にて

和泉槇尾山の至宝展

～西国巡礼四番札所のにぎわい～

和泉市内の山間部に位置する槇尾山施福寺は、西国三十三ヶ所巡りの四番札所として今も多くの人々の信仰の場となっています。奈良時代頃には山岳信仰の拠点としてはじまり、その後密教寺院として繁栄しました。現在でも生い茂る森のなかに石垣や子院の建物が見え隠れし、住時の面影をしのぶことができます。

和泉市教育委員会では、槇尾山の文化財に関する総合調査を1998年から継続して行っています。

この特別展では、総合調査の成果をもとに、あまり知られていない槇尾山の文化財や槇尾山経塚の出土品を一挙に公開し、多くの人々が訪れた槇尾山の姿を紹介します。



木造 地藏菩薩立像 平安時代



銅杖 平安末～鎌倉時代

主な展示品

【仏像】(施福寺蔵)				
木造	元三大師坐像	1軀	鎌倉時代	前・後
木造	不動明王・二童子像	3軀	平安末・鎌倉	前・後
木造	地藏菩薩立像	1軀	平安時代	前・後

【絵画】(施福寺蔵)				
参詣曼荼羅	(大阪府指定文化財)	1幅	室町時代末期	前・後
参詣曼荼羅		1幅	江戸時代	前・後
阿闍梨曼荼羅		2幅	室町時代	前・後
五大明王像		1幅	室町時代	前
白骨種子図		1幅	桃山時代	後
天台大師像		1幅	室町時代	前
十三仏像		1幅	室町時代	後
行滿聖人伝絵		2幅	江戸時代	前・後

【工芸】(施福寺蔵)				
青銅鍍金	経筒	1口	平安時代	前・後
青銅	錫杖	1柄	平安末～鎌倉	前・後
青銅鍍金	五鈷杵	1口	平安時代	前・後
桐雪	持ち笹文小袖	1領	桃山時代	前・後
青磁	蓮唐草文鉢	1口	中国南宋～元	前・後

【古文書】(一部を除き施福寺蔵)				
槇尾山大縁起	(重要文化財)	1幅	正平15(1360)頃	前・後
空海請来目録上表文稿本		1卷	大同元(806)	前・後
伝空海消息(臨模本)		1卷	江戸時代	後
豊臣秀頼黒印禁制		1通	慶長19(1614)	前・後
槇尾山絵図(池辺家蔵)		1枚	享保4(1719)	前・後

【經典】(施福寺蔵)				
妙法蓮華經	妙音菩薩品	1卷	平安時代	前・後
大般若經	卷46・卷336	2卷	奈良時代	前・後
細字法華經		1枚	室町時代	前・後

【槇尾山経塚出土品】(和泉市教育委員会蔵)すべて和泉市指定文化財				
青銅鍍金	保延銘経筒	1口	保延5(1139)	前・後
青銅	永正銘経筒	1口	永正11(1514)	前・後
凝灰岩	経筒外容器	1口	鎌倉時代	前・後
灰釉	弦文壺	1口	平安時代	前・後
青銅鍍金銀	蝶鳥草花文水滴	1口	平安時代	前・後
青銅	胎藏界五仏方鏡	1面	平安時代	前・後
青銅	蘆辺雁千鳥文鏡	1面	平安時代	前・後
青銅	草文七棊鏡	1面	平安時代	前・後
青銅鍍金	花瓶	1対	平安時代	前・後
青銅鍍金	六器	1対	平安時代	前・後
青白磁	蝶鳥草花文菊花形盒	1合	中国宋時代	前・後
青白磁	蓮弁文小壺	1口	中国宋時代	前・後
青白磁	輪花皿	1口	中国宋時代	前・後

前:前期 後:後期

其甲乙延暦廿三年夏季之月随入唐大使藤原朝臣同上第一船若起成陽其舟分列福州着岸十二月下旬到長安城宣陽坊官宅安宜廿四年仲春十月大吏等使朝奉朝唯中甲乃然卷 勅留任西明寺永忠和故院於是歷城中訪者皆偏然奉過青龍寺源塔院和尚法諱惠果阿闍梨其大德則大德者寺大德智三藏之付法弟子也德惟詩舞道

空海請来目録上表文稿本 大同元年(806)



保延銘経筒(市指定文化財)保延5年(1139)

妙法蓮華經妙音菩薩品第四
尔時釋迦牟尼佛放大人相肉髻光明及放眉間白毫相光遍照東方百八萬億那由他恒河沙等諸佛世界過是數已有世界名淨光莊嚴其國有佛号淨華宿玉智如来應供心遍知明行受善遊世間解無上士調御丈夫天人師佛世尊為無量無邊善喜隆大眾恭敬圍遶而為說法釋迦牟尼佛白毫光明遍照其國尔時一切淨光莊嚴國中有一菩薩

妙法蓮華經妙音菩薩品 平安時代



参詣曼荼羅(市指定文化財)室町時代末期